

かつてアメリカではアルコール飲料の製造・販売を禁止する「禁酒法」が施行された時代があった。シカゴのギャング、アル・カボネと政府財務局のエリオット・ネスとの激しい闘いを映像化した「アンタッチャブル」がヒットしたところをみると、現代のアメリカ人にとっても、禁酒法時代は懐かしく面白くかつドラマチックな時代だったのだ。

大阪、京都で今人気のあるレストランやバー、あるいは居酒屋を数多く回った。禁酒法時代の大阪は、飲みに行った先は、何やないわく因縁のありそうな薄暗いバー。そこは、禁酒法時代に教会の地下室で人目を忍んで酒を飲んだ所を模していた。奥にはスポットライトに照らされた十字架が飾られ、壁伝いに水が流れ落ちていた。反対側の壁にはパイプオルガンが設置され、アーチ式の柱には怪しげなろうそくが螺旋状に巻き着け



大阪は、俳人松尾芭蕉の終焉（えん）の地。最晩年の句「旅に病んで夢は枯野を駆けめぐる」をテーマにして設計された和食レストラン。天井には、夢をイメージし和紙で製作された照明がいくつもぶら下がり、隅々にススキや満月のオブジェが枯れ野を演出している。伝いをする。

おしやれ空間見聞記

——亀井 創太郎——

つまらぬ下がり、隅々にススキや満月のオブジェが枯れ野を演出している。伝いをする。

閑静な住宅地に突如現れたのは、飛行機の格納庫。雲機セントルイス号で大西洋無着陸飛行を達成し、「翼よ、あれがパリの灯だ」と叫んだリンドバークの飛行機格納庫が「おしやれ」なレストランとして、前記したレストラン群に上には飛行機のオブジェがぶら下がり、その横にはパラシュートで今まさに着地しようとする飛行士が浮かんでいる。そこで味わったカンボスーパは、ニュートリンズの名物料理だ。

大阪は、俳人松尾芭蕉の終焉（えん）の地。最晩年の句「旅に病んで夢は枯野を駆けめぐる」をテーマにして設計された和食レストラン。天井には、夢をイメージし和紙で製作された照明がいくつもぶら下がり、隅々にススキや満月のオブジェが枯れ野を演出している。伝いをする。

破壊と再生をテーマにしたビアレストランでは、枯れかけた木々から緑がよみがえり、大木と木々がいくつも現れてほしいものだ。

（亀井通産社長）